様式3まとめ（学校関係者評価委員用）

坂戸市学校評価システム

令和元年度　学校評価
自己評価及び学校関係者評価

坂戸市立桜小学校

学校名	坂戸市立桜小学校
実施日	令和2年2月28日

○評価　A：よくできている　　B：概ねできている　　C：あまりできていない　　D：できていない

・「改善策として考えられること等」の欄には、それぞれの質問項目に関して、その改善策として考えられること等があれば記述します。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
目指す学校像	1	学校は、児童にとって通いたい学校となっているか。	B	・楽しそうにしている児童が多い。 ・魅力ある授業づくりを目指して努力している。 ・児童理解、生徒指導力、授業力の向上が必要である。 ・全員が安心して落ち着いた生活を送っているとはいえない。	B	・児童アンケート（12月分）で学校が楽しいとの回答が100%近くありよい。 ・学校や廊下や行事ですれ違う子ども達の顔は皆笑顔である。先生方の努力がうかがえる。 ・年間を通していろいろな行事が行われ、学校、児童、保護者等の楽しい様子が伺えた。なかでも桜フェスタは特によかった。今後も継続してほしい。 ・おおむね元気に登校している。 ・時々遅れて登校する子や泣きながら登校する子が見受けられるので、高学年の子が低学年をもっと気にかけてくれるとよい。
	2	学校は、保護者・地域にとって通わせたい学校となっているか。	B	・よいと思う。 ・学校でできることはしていると思う。 ・保護者とのやり取りを密に行っている。 ・各担任はまめに保護者に連絡を入れ、コミュニケーションがよく取れていた。 ・保護者の中には北小よりも設備が悪くなったと感じている方もいる。特別教室のエアコンなど。	B	・学校だより「さくら」の毎月の地域への回覧がよい。 ・学校は、地域と連携しての見守り活動の実施がよい。 ・学校全体としては、適切なコミュニケーションが取れ、保護者との信頼関係が築かれていると思う。 ・一部保護者アンケートから、宿題の件、連絡について改善依頼がある。一部意見に対しても学校全体で協議して改善に向けた対応をお願いしたい。 ・親が仕事をしている家庭での親子関係でもう少し子どもに気を配ってもらいたいと感じることがある。地域の自治会や見守り隊等でフォローしてあげられるような仕組みを作っていけたらと思う。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っているか。（共通項目）	B	・協力体制はよい。 ・以前に比べて全体的な実労時間は短くなったと思う。 ・学年主任をはじめ周りの先生方にいつも気にかけてもらっていると感じる。 ・調整等があり、計画的に休暇が取れている。 ・放課後の会議が勤務時間内で終わるよう配慮してきた。 ・行事はより精選もしくはより簡素化する必要があると思う。 ・働き方改革になるような根本的な解決策を検討していく。ただし会議や運営の質が落ちないような対策をしていく必要がある。 ・来年度は桜フェスタと持久走大会の見直しを図りたい。 ・各部の主任が削減案を持ち寄って論議する。	B	・電話対応時間等が決められ、夏休みも休日が取られ良い方向に向かっていると思う。 ・「働き方改革」の意識も高まっていて勤務体制の改善が図られている。時間的な制約はあるが、教職員全体で創意工夫して改善を続けてほしい。 ・先生方が帰られる時間が早くなったようだが、相変わらず早朝から出勤されている先生とそうでない先生が決まっている様子。 ・リフレッシュされた気持ちで、労働の質を向上させてほしい。 ・保護者と連携を図ってほしい。家庭でも生活面での指導やしつけにもっと力を入れることで、教師の負担を少なくできると思う。
	4	学校は,教職員にとって働きたい職場となっているか。	B	・よい職場環境になってきた。 ・よくコミュニケーションが取れている。 ・分掌以外の研修にも参加する中で学ぶことが多々ある。 ・各々がそれぞれの力を発揮して頑張っていると思うが、特定の職員に校務分掌等の負担が多く行っているように感じる。 ・教科主任は来年度部長かどうかを確認し、校内職員の状況を把握して慎重に決めるべきだったのではないか。	B	・働きたいと思える良い職場になってきたようである。 ・教職員全体で職場環境はよくなってきており、コミュニケーションも取れてきていると思う。 ・一部職員に業務負担が多くなっているとの意見があり改善が必要と考える。 ・今後不満等があった場合は、早期改善に向け研修、指導等すばやい対応を願う。
教育課程・学習	5	学校は、学力向上に向け、児童にわかりやすく、工夫した授業をしているか。（市共通項目）	B	・自身の教材研究、担任との情報交換をもとに児童の実態に応じた学びの多い授業の展開となるよう努力している。 ・学び合いを取り入れた授業をしている。 ・学び合いを意識した授業を教員が実践してきている。 ・勤務時間の範囲を超えて教材研究をしている現状がある。 ・基礎定着が図れていない児童もおり少人数が機能できないこともある。学び合いも大切と基本の徹底の兼ね合いが大切である。 ・努力しているが充実を図るところまで至っていない。 ・授業の進め方に多々課題が見られる。	A	・学校での授業の進め方は、目を見張るほど改革されていると感じた。少人数で一人一人じっくり見られる授業のやり方は大変良い。 ・学び合いを取り入れた授業が実践され、定着化しつつある。今後も定着化に向けて、教職員全員で知恵を出し合い対応してほしい。 ・学校としての学力テストの結果が向上している。普段から先生方が授業の工夫を重ねてきた成果だと思う。 ・研究授業がよく行われている。 ・分かりやすい授業のための取組を行っている。
	6	学校は、豊かな心を育む教育の充実を図っているか。	B	・授業を行い、校内研修を通して学ぶ機会を得ることができた。 ・校内研究等で充実を図れている。 ・道徳の授業を計画的に実施することはできている。	A	・桜小学校の子どもたちは、朗らかな子どもが多く、大きないじめもないようなのでA評価にできる。 ・校内研修（道徳）が充実している。 ・通常の教科の他、社会科見学、地域の勉強、昔遊びの会等、様々な内容で幅広く取り組んでいる。 ・全国的に「いじめ」問題はあり、今後も継続して道徳の授業等で指導願いたい。
	7	児童は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいるか。（市共通項目）	B	・だいたい落ち着いて生活している児童が多い。 ・学校全体としてはどのクラスも落ち着いた授業を展開している。 ・あいさつは学級指導しても個になると変化が見られない。 ・あいさつはするが進んで行う児童は少なく感じる。 ・忘れ物が多く、学校と家庭で連携に声かけする必要がある。 ・もっと丁寧な言葉遣いをするよう声掛けが必要である。 ・あいさつや言葉遣いに関しては職員全体でできている面を積極的にほめる機会をもっと増やしていきたい。	B	・学校全体としてクラスが落ち着いた中で授業をしている。 ・あいさつの問題は、ここ数年桜小学校の命題となっている。できる子を褒め、できない子に強要しなくてもよいのではないかと思う。成長するに従い、自分で必要と感じたら自然とできるのではないかと思う。 ・あいさつを進んでする児童は少ないが、大人がすると返ってくることが多くなった。 ・あいさつに関しては、特にリーダーがしない班はしない子が多い。リーダー教育徹底の必要あり。 ・あいさつ、言葉遣いが一部問題となっており、学校全体で児童のできるところは褒める等、指導を工夫改善して継続願いたい。 ・特にあいさつに関してはなかなか進んではしてくれない。学校の外でのあいさつは、家庭のしつけでもある。PTAの皆さんにも協力してもらうとよいのでは。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
	8	学校は,心身の健全な育成と体力向上を図っているか。	B	・持久走大会に向けて、どの児童もよく頑張った。 ・外遊びに進んで出ていく児童が多い。 ・体力向上を図るために授業力の向上を図っていきたい。 ・児童の体力が低いと感じる。運動への意欲が高まる掲示や体力向上に向けた取組の充実を図っていきたい。 ・体育朝会の数が少ないので内容を充実させる必要がある。 ・運動好きな子はより好きになるが嫌いな子をどのように好きにさせるかは課題。	B	・教職員全体で意識をもって体育、保健体育等の授業を工夫されて、児童も元気に運動している。 ・運動会では、勝負だけにこだわらず全員で協力して行う競技もあり良かった。 ・持久走大会に向け業間休み全校（先生含む）で走っている姿がありよかった。学校全体の体力向上の取組もよい。 ・運動嫌いな児童もいるので、体力向上に向けた取り組みを工夫・改善し続けてほしい。 ・桜小学校に限らず、自分の子どもの頃と比較して、身体能力は落ちているような気もする。
	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	A	・特別支援学級のクラス数も多く、学校内に自然に定着している。 ・様々な担当教員と連携が取れていると思う。 ・毎日のように交流があり、よいと思う。 ・特別支援学級と通常学級の担任がよくコミュニケーションをとっている。 ・学期途中の時間割の変更をなくしてほしい。	A	・先生方の自己評価も良く、望ましいことだと思う。 ・市内で「ことばの教室」が桜小のみとのこと。ぜひ続けてほしい。 ・身体、知能等でクラスわけができてよい。 ・他クラスの先生から支援級児童への声掛けがよくみられた。 ・学校の特別支援教育の充実化が図られている。 ・特別支援教育について、研修、自己啓発等も定着している。 ・特別支援学級と通常学級との交流は毎日のように行われており、体制が確立されている。 ・少人数での教室の様子を見学して大変充実していると感じる。良い環境ができている。
教職員	10	学校は,体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事の根絶のために意欲的に取り組んでいるか。（市共通項目）	B	・大きな事故なく終えられそうである。 ・複数の職員の目で見ていることがよいと思う。 ・校長先生を中心に体罰、交通事故、不祥事根絶の指導をいただいている。	A	・不祥事の事故もなく、学校全体で徹底され活動されてきたことが理解できる。今後も継続した取組をお願いしたい。 ・通学時の安全については、保護者や地域の方々も交え積極的に取り組んでいる。 ・教職員についても、これからも引き続き不祥事等がないように律して頂きたい。 ・大きな事故もなくよかったが、大雨や地震時の保護者への連絡方法等に改善の余地がある。 ・ちょっとした困りごとや不安等に周りのベテラン者の気遣いやフォローが大切だと思う。仲間意識を大事にしてほしい。
学習環境	11	学校は、環境美化に努め、温かさと潤いのある学ぶ環境づくりを組織的に進めているか。	B	・花壇の整備等環境美化に努めてきた。 ・清掃、保健主事の先生方を中心によく共通理解が図れている。 ・言葉遣いに関しては子どもだけでなく教員も見本となるよう気を付けていく。 ・期間が過ぎている掲示が貼ってあることがある。 ・清掃のしかたを統一すると指導がしやすい。（転入教職員にもすぐわかる。小→中と連携できるとよい。）	B	・先生方が子どもたちのために善意で取り組んでいただいていることは応援したい。 ・学校全体の環境美化活動が充実している。 ・校内の作品展示やポスター、花壇の整備等大変整理されていて美しい。 ・教職員全体の意識も高く共通理解も図られている。 ・子どもとともに先生方の言葉遣いも気を付けていく必要がある。 ・校舎外（まわり）のゴミを自主的に拾ってくださる職員がいらっしゃるとよい。 ・言葉遣いは毎年継続的な課題である。教職員の皆さんも日々努力していると思うが今後もより改善意識をもって対応願いたい。
	12	学校は,安全で機能的な教育環境づくりを進めているか。	B	・月1回の安全点検、刃物や薬品点検を行っている。 ・備品管理が徹底されている。 ・教育環境整備は全校児童が関われるように計画できるとよい。 ・昼休みの図書室利用ができないことが度々ある。会議室の整備をしてほしい。 ・備品台帳やシールをわかりやすいものにしてほしい。 ・キャスターの破損している薬品棚の継続使用を余儀なくされている。地震の際、倒れる危険性が大きいため心配である。	A	・全体的に物は丁寧に使用され、また適切に管理されているように見える。 ・学年ごとの花や植物、6年生の卒業記念の芝桜植え等、環境を考えながら児童への教育がなされている。 ・学校の安全点検がしっかりなされている。定期的な安全点検、補修等これからもしっかりと続けてほしい。 ・学校の備品等の交換、年間予算も決まっていると思うが、安全面を考慮して交換等を続けてほしい。
家庭・地域との連携	13	学校は,開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っているか。（市共通項目）	B	・教育活動について説明できている。 ・昔遊びに老人会の方に来ていただいた。 ・ホームページはほとんど機能していなかったが、途中から更新をした。もっと定期的に更新ができるとよい。 ・ホームページの更新は市で統一してやってもらえるとよい。	A	・地域の人（民生委員等）へも授業見学の機会を設定してくださっている。（今年始めてで他の方からも良かったという意見があった。） ・1年生の地域のお年寄りを呼んでの「昔遊びの会」を続けてほしい。児童のためだけでなく、お互いの交流の場になる。 ・学校だより等の配布が学校の様子が分かるのでよい。 ・マメールによる情報発信等、子どもたちの安全や情報の共有に熱心に取り組んでいる。 ・PTAによる月1回の廃品回収「さくらの日」の実施がよい。 ・日々の細かい情報もまめに発信してほしい。 ・ホームページに物足りなさを感じているが、併せて、更新や充実を図ることは先生方の仕事を増やしてしまうことに直結し、やむを得ないかと思う。極論からいえば、必要性・利用価値が低ければ廃止を検討してもよい。
小中連携	14	学校は,小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進しているか。（中学校区共通項目）	B	・夏の研修や互いの授業の参観ができ、交流が図られた。 ・小中連絡会で小中のギャップについて課題が上がっている。 ・小学校のことが中学校に伝わっていないことがある。例えばお手紙のフリガナ。 ・小中での研修、児童生徒のかかわりは学年が限定されている。 ・来年度からプログラミング教育が始まるので小→中の系統性をもって指導ができるよう市全体で整えていただけると教師側も指導がしやすいと思う。	B	・学校の教育活動全体、スムーズに活動できている。 ・近くにある桜中との交流がもう少しもてないだろうか。（例：朝のあいさつ運動に定期的に参加してもらう等） ・小中一貫教育は必要なのか。メリットを示していく必要を感じる。保護者側で望んでいるのかも疑問である。 ・小中学校間の交流、先生方の負担も多いと思うが、学校全体で見直し、改善を加え児童のためになる対応を引き続きお願いしたい。 ・中学校との定期的な交換会等も地域の人たちを巻き込んで行ってみてもよいと思う。